

## 第4回建築物等事故・災害対策部会 議事要旨

日 時：平成18年4月7日（金）10時～12時

場 所：国土交通省低層棟共用会議室2A

出席者：久保部会長、直井部会長代理、伊藤委員、今村委員、後藤委員、櫻井委員、島野委員、園田委員、高橋委員、辻本委員、野村委員、萩中委員

（「議事1 前回議事録の確認」）

※ 事務局より、各委員に対して、意見等がある場合は事務局まで連絡いただくようお願いした。

（「議事2 エレベーターの地震防災対策の推進について（案）」）

- 全般的にはいいと思う。技術的対応がきちんとしていて、安心感や主観的安全性にも配慮されている。
- 他の保守会社による救出は、保守会社相互の話であって民々のこと。体制整備はいいが、行政対応の観点はどうなっているのか。
- （社）日本エレベータ協会を通じて要請していくこととなる。
- 消防から保守会社への通報体制の整備について、この部会に消防は参加していないが、進捗状況はどうなっているのか。
- これまで消防や（社）日本エレベータ協会をまじえて検討しており、実現に向け引き続き調整していく。
- 「1ビル1台」は「建物管理者・利用者の理解・協力を得つつ」とあるが、どのような方針なのか。
- （社）日本エレベータ協会を通じて保守会社に要請し、定期検査の機会などに保守会社が周知し環境整備していくこととなる。
- 国や地方公共団体から、改修についてどのような支援制度が利用可能か周知して欲しい。制度を知らなければ制度を使うことが出来ない。
- 「途中階」という表現は「階」だと捉えられてしまう。ここでは「階の途中」という趣旨のはず。定義を書いた方がいいのではないか。
- 小学生が縄跳びを首にかけてエレベーターに乗り込み、縄跳びの把手だけエレベーター外に残ってドアが閉まりエレベーターが動いたため、首が絞まり死亡する事故があった。だからドア開放は敏感に感知させるのだろうが、地震でわずかにドアが開くことと相反する。一方で、これを改良すれば 2/3 以上閉じ込めを回避できる。技術者として判断に迷う。
- 改良によって事故の増減のバランスをとるのがエンジニアリング。閉まっ

た状態から一瞬開閉することの問題の解決は可能と考えている。

- 保守員による巡回・復旧について、その他一般建築物の中で高層建築物を優先することは妥当だが、公的建築物の中でも優先順位はある。災害弱者が多く利用している学校、福祉施設、病院を意識した書き方をしてはどうか。
- かが内での情報提供について、ハートビル法や交通バリアフリー法などバリアフリー化が法的に位置付けられている中で、ユニバーサルデザインの観点からの仕様が「推奨仕様」でよいのか。
- まず利用者に提供すべき情報を整理する必要がある。その上で情報ごとに指針の中で「基本仕様」「推奨仕様」を分ければよいのではないか。
- 情報提供について重要なこととして、かが内の情報が外部に分かるという点が抜けている。覚知までの時間の問題があるので、運行状況だけではなく、中の状況もポイントになる。
- 階と階の間で発生している閉じ込めの状況を見ることは難しいが、技術的にはインターネット回線を利用した遠隔監視などがある。
- 今は防犯の観点で遠隔監視が付いているので、それをうまく活用できれば。
- P波感知器の導入コストが40万円～130万円とあるが、割合安い印象。引き渡された時期もあり、即欠陥品にはならないと思うが、これを住民が負担するのはいかがか。事業者や保守会社がCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）として対応してはどうか。
- 「リスタート運転機能」や「自動診断・復旧システム」という名称は、言葉と内容が合っていないように思う。名は体を表すような表現にしてほしい。
- 「安全装置等の標準化」は内容的にはいいが、ハードではなく体制作りの対策であることが伝わるような見出しにした方がよい。
- リスタート運転機能の「IP網を通じたセンシング技術」はすぐに実現できるのか。
- この技術は5年～10年前からあり、センシングのための基盤がすでに整備されていて短時間で対応できるものもあれば、古いため対応困難なものもある。エレベーターが作られた時点に合わせて対応していきたい。
- 1年以内に講ずべき施策の効果をどう事後評価するか。報告書の終わり方が唐突なので、この後に、今後、報告書のフォローアップを行う旨などを明記しておくべき。